

2015年度決算報告

学校法人京都橘学園の2015年度(平成27年度)決算は、2016年5月23日の理事会及び評議員会で承認されました。

経常的な収入である教育活動収入、および教育活動外収入は、2014年度(平成26年度)と比較して1億8,364万円の増加となりました。

収入の大部分は、大学・中高の学生生徒等納付金で、経常収入の81.4%を占めており、過年度における健康科学部の開設による学生数の増加、および既設学科の入学定員増等により、前年度比較で104.0%となっています。

国及び京都府等から交付される補助金の経常収入に占める割合は約10.6%で、平成27年度私立大学等改革総合支援事業タイプ1の獲得ができなかったことにより、前年度比較では1.6%の減少となりました。

支出面では、経常的な支出である教育活動支出、および教育活動外支出が前年度より3億1,113万円増加しました。より良い教育環境充実を図るため、学生コミュニティ・研究棟(響友館)の建設、ラーニング commons の整備等にかかわる教育研究経費が増加したことが主な要因になります。

経常収支差額は例年とほぼ同額で推移し、教育活動以外の特別収支を加算した基本金組入前当年度収支差額では10億3,445万円を計上しております。

本学園では2014年度に2022年までの長期ビジョンと2018年までの中期プランからなる第1次マスタープランを発表しました。

このマスタープランのもと2015年度は、施設設備面で、大学において学生コミュニティ・研究棟(響友館)建設、4つのラーニング commons (セントラル commons、フォレスト commons、ラーニング & リサーチ commons、アクティブ commons)の整備、教室棟における ICT 装置整備、

中高において教室改修、食堂および売店の整備、教室改修に伴い机・椅子の入替、図書等の購入を行いました。

基本金組入については、上記の施設設備面の充実に伴う第1号基本金の組入を行い、将来に向けた施設設備整備のために第2号基本金、さらに、京都橘大学奨学基金への寄付に伴って第3号基本金として組み入れました。

これにより、2015年度は11億2,005万円の支出超過となり、繰越消費支出超過額は16億8,235万円となりました。

私立学園を取り巻く経営環境は引き続き厳しい状況にあり、平成27年度版今日の私学財政(日本私学振興・共済事業団)によると、帰属的な収支差額がマイナス(帰属的な収入で消費的な支出が賅えない)の学園は全国で178大学法人(32.7%)となっております。

こうした状況にあって、本学園の経営状況を示す帰属的な収支差額比率は14.2%で、全国平均7.2%(平成26年度)より高い水準を保っており、現状においては、依然安定かつ健全な経営状態であるといえます。